

2025年5月30日

生活協同組合パルシステム東京様

ペシャワール会

2002年9月のご支援以来、長きに亘り当会のアフガニスタンにおける支援活動にご理解と多大なるご援助を賜りまして、ありがとうございます。

貴組合をはじめ多くの方々のご支援により、中村医師の逝去後も現地PMS（ピース・ジャパン・メディカル・サービス）の医療・灌漑・農業事業は、順調に続いております。

活動地であるアフガン東部では、干ばつが進行する中、2003年に着手した総合的農村復興計画「緑の大地計画」により耕作地が着実に回復し、現在では灌漑面積が23,800haに拡大し、これらの地で70万人以上の人々の生活が維持されています。

お寄せいただきました組合員皆様からの平和カンパ1,041,495円はPMSの活動に有効に使わせていただきましたことをご報告しますとともに深く感謝申し上げます。

2024年度の現地プロジェクトは以下の通りです。

《2024年度プロジェクト報告》

1. 医療事業

2024年度も前年度に引き続き、アフガニスタン東部山岳地にあるPMSのダラエヌール診療所で、24時間対応できる診療体制を維持しています。1991年に開設されたこの診療所では、一般診療に加え母子健康保健向上のため女性職員による妊産婦の保健指導、ワクチン部門では乳児や児童を対象に予防接種を積極的に実施、結核対策も行なっています。地域に根ざした診療活動は、住民からの信頼を集めています。

ナンガラハル州の保健局長や知事からのハンセン病対策への協力要請を受け、中村医師の事業の端緒となったハンセン病診療の再開実現に向けて現在協議中です。（年間診療数約56,000人）

2. 灌漑事業

2024年度は以下の事業を手がけました。堰や用水路などの建設に関しては、日本側の技術支援チームと連携をとりながら慎重に事業を進めています。

〈マルワリードI堰・用水路改修 完了〉

2019年度から取り組んできたマルワリードI堰・用水路（2010年完工）の改修工事が完了しました。2023年度の時点でコンクリート製の土砂吐き建設、取水門の二門増設、及びそれに伴う用水路の拡幅を行っており、24年度は用水路床面へのソイルセメントによるライニング工が全長27キロの用水路末端まで達し、改修作業を終えました。

〈ナージアン郡モラヘイル用水路改修工事〉

2024年4月よりナージアン郡で地元に元々存在していたモラヘイル用水路の改修工事を行なっています。2023年度に完工したバラコット用水路同様、スピングル山脈を水源とする小河川と湧水からの取水工事を実施しています。全長2キロの用水路末端には4万7,000m³と2,500m³の貯水池を設置しています。ナージアン地区では、モラ

ヘイル用水路上流域の既存用水路改修や、近傍の谷での砂防堰堤造成などを予定しています。2026年9月完工予定。

3. 農業事業

マルワリードI用水路最終地点のガンベリ沙漠の試験農場(約230ha)で穀類や野菜、果樹を中心に様々な栽培と畜産を続けています。各作業地での植樹を含め植樹は130万本を超え、大地を緑にし、荒々しい気候変動を少しでも和らげる役割も果たしています。

2022年度より、かつて試みたものの定着しなかったサツマイモ栽培に再挑戦しています。立派に育ったサツマイモが収穫できており、蔓を近隣郡の住民に渡すなどして普及を試みているところです。干ばつ下での救荒作物として今後期待されます。

現在アフガニスタンでは、これまでにない規模の干ばつが全土で進行しています。温暖化の影響による局地的豪雨や急速な雪解けにより、干ばつと洪水が繰り返し生じている状況の中で、中村哲医師(PMS)が長年にわたり確立した、年間を通して安定した水量を取水できるPMS取水方式はより重要となってきています。

PMSの活動が地域の人々の助けとなるよう、2025年度も引き続き医療・灌漑用水路・農業事業を継続し、どこにも逃れようのない人々が安心して生活できるよう中村哲医師の意志と共に努力して参ります。

これからもペシャワール会は全力で現地を支えて参りますので、末永いご支援をよろしくお願い申し上げます。

